

# 非違行為防止のための活動実施及び計画等の報告

長野西高等学校中条校

## 1 平成26年度の活動

### (1) 取組項目

- ・非違行為防止委員会でコンプライアンス・マニュアル及び非違行為対応マニュアルを作成  
→県教委の資料及び他校のマニュアルを参考にして、本校に対応したマニュアルを作成した。  
また8月の職場研修会で読み合わせを行い、理解を深めた。
- ・具体的事例にもとづいた研修とセルフチェック  
→・交通安全、体罰・セクハラ防止について具体的な事例にもとづき研修。「なくそうセクハラ！」による自己点検30項目を実施。(4月)  
・個人情報保護についてその対処方法を各自記入。複数職員が発表して全体で確認する。(5月)  
・積極的なコンプライアンス(生徒・保護者・地域のために法令にないことも積極的に行う必要性)について討議し、本校の在り方の議論につなげた。(8月)  
・秋の交通安全運動に向けて、安全運転セルフチェック(免許更新講習のものを利用)を実施。各自の運転の傾向について確認する。(9月)  
・体罰根絶のためのセルフチェックシート実施。(1月)
- ・地域を理解し、職員間の同僚性を高めるための研修  
→7月1日、期末考査の午後、中条地区内の里山及び名所を巡る研修を実施。地域を理解するとともに、職員の交流を深めることができた。
- ・朝の挨拶運動  
→毎朝、複数の職員が玄関前に立ち、生徒及び職員に「おはよう」の声掛けをした。職員間及び生徒と職員間のコミュニケーションが円滑になった。

### (2) 成果と課題

- ・本校独自のマニュアルを作成し活用できた。
- ・職員間の同僚性を高めるレクレーション等の取組は、即効性はなくとも職場の風通りをよくし、非違行為を防止するためには必要である。26年度は、職員の地域への理解を深めることもできた。
- ・毎朝、玄関前で行っている挨拶は職員間、職員生徒間のコミュニケーションを円滑にし、学校の居心地の良さ・穏やかな雰囲気をさらに高める効果があった。
- ・研修について職員の中にある「またか」という意識をなかなか払拭することができない。しかし、研修の形態等を工夫しながら継続的に実施するしかない。
- ・一方で、職場の雰囲気を良くし、職員相互のコミュニケーションを図る取組をさらに意図的に行っていく必要がある。

## 2 平成27年度の計画

- ・マニュアルの読み合せと確認
  - コンプライアンス・マニュアルを読み合わせるとともに、具体的な場面と対応について職員を校務分掌により3つのグループに分け討論を行う。(4月、11月)
- ・具体的事例にもとづいた研修とセルフチェック
  - 具体的事例により、少人数での熟議を取り入れた研修を実施。安全運転、スクールセクハラ、体罰防止のそれぞれのチェックシートを定期的に行う。(4月、6月、8月、10月、2月)
- ・「生徒を励ます言葉」の募集
  - 学校生活のさまざまな場面で、生徒に元気とやる気を喚起する言葉を職員から募集し、言葉集を作成する。長野西高校全体(本校及び分校)で共有し、職員の人権感覚や校内指導の在り方について振り返る契機とする。(9月～11月)
- ・職員間の同僚性を高めるための研修
  - 職員間のコミュニケーションを円滑にする職員研修(レクレーション含む)を実施する。(7月)
- ・朝の挨拶運動
  - 毎朝、複数の職員が玄関前に立ち、生徒及び職員に「おはよう」の挨拶とプラスαの声掛けをする。生徒及び職員間のコミュニケーションをさらに円滑にする。(4月～ 毎日)